

訓練

総合事故復旧訓練

列車事故など緊急時における対応力の強化を目的とした訓練を毎年実施しています。平成21年11月に、淀車庫において、『列車通過直前の踏切道に自動車が突然進入してきた』との想定で実施しました。

近畿運輸局・警察署・消防署の協力のもとで社長以下合計約170名が参加し、人命救助・避難誘導・二次災害防止・正確な情報伝達・事故列車の救援収容がスムーズにかつ確実に行えるよう、対応能力の強化を図りました。

▶訓練開始

- ①事故発生 [13:30] 列車通過直前の踏切道に乗用車が突然侵入し列車と衝突、列車は脱線し乗用車は大破。乗務員が運転指令に無線で連絡し、反対線路を走行の列車を緊急停止させる。
- ②乗客の救出 乗務員と応援に駆けつけた駅員等により避難誘導を開始。
- ③関係方面への連絡と対策本部・復旧本部を設置 本社に対策本部、現場に復旧本部設置。



復旧本部の設置

- ④消防・警察到着 [13:41] 救助活動と消火活動を開始。乗用車に閉じ込められたドライバーをエンジンカッターで切断し救出。



消防隊による消火活動

- ⑤現場検証終了、復旧作業開始 [14:20] 消防・警察・運輸局による現場検証が終了し、復旧作業を開始。脱線した車両の復線、踏切設備の復旧、レールと電線路の復旧等。



車両係員による脱線復旧作業

- ⑥事故車両を収容 [15:10] 先頭運転室損傷のため後部運転室より運転して、車庫に収容。
- ⑦平常運転に復帰 [15:20] 復旧作業が終了し、平常運転に戻る。対策本部・復旧本部を解散。

▶訓練終了

総合防災訓練

天変地異や災害などに対し、適切に対応できる能力の向上を目的とした訓練を毎年実施しています。平成22年2月には、最近注目されている「ゲリラ豪雨」を想定し、本社に対策本部を設置、情報伝達や地下駅・踏切道の止水板設置とお客さまの避難誘導、浸水箇所からの車両避難の訓練を行い、いざというときの対応能力を高めました。



総合防災訓練

脱線復旧訓練

車両部門では、不測の事故などで車両が脱線した場合に備え、緊急自動車を寝屋川・淀車庫に配置しています。また、脱線復旧訓練を年間3回実施するとともに、夜間・休日でも速やかに対応できるよう、緊急時連絡体制を確立し非常呼集訓練も実施しています。



脱線復旧訓練

地下線内車両火災想定訓練

運転士・車掌・駅係員を対象に地下線内車両火災想定訓練を実施しています。平成21年4月に、京都地下線を走行中に『車両から発煙した』ことを想定して、営業運転終了後、実際に列車を走行させ、お客さまの救出・避難誘導・消火作業が迅速・的確に行えるよう、緊迫した訓練により係員の冷静な判断力や連携を養っています。

また同時に地下駅の消火設備や、途中線路に設置されている防災設備を実際に歩いて操作するなど、万一の非常事態に備えています。



地下線内車両火災想定訓練

鋼索線における事故想定訓練

鋼索線においても、不測の事態・事故に備え、お客さまの避難誘導をはじめとする訓練を定期的に行っています。平成21年12月に八幡市駅において実施しました。



事故想定訓練

TOPICS

トップ巡視

春秋の全国交通安全運動、夏の安全運転推進運動、年末年始時の輸送安全総点検など、機会あるごとに社長・安全統括管理者の現場巡視を実施しました。主要駅・列車区・車両基地・重要施設などの査察や現場の第一線で活躍している担当者との意見交換を行い、督励しました。

また、朝の出勤時に列車の運転室に添乗し、鉄道の安全に対する率先垂範の姿勢を見せています。



社長巡視(駅のバリアフリー化工事)